

授業概要

科目名	高次脳機能障害学Ⅱ				授業の種類	演習	講師名	菊妻 愛愛
授業回数	15 回	時間数	30 時間	1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	2年 前期
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>患者さんに検査を実施していくうえでの心得を身につける</p> <p>各検査を手順どおりに実施できる。検査結果を元に基本的な評価を行うことが出来る</p>								
<p>【実務者経験】</p> <p>言語聴覚士として倉敷市立病院に勤務、失語症・高次脳機能障害・嚥下障害・構音障害・音声障害・発達障害のリハビリテーションに従事経験。</p>								
<p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>高次脳機能障害についてより具体的な内容を理解し、評価法についての基礎知識と検査バッテリーおよびそれらの実施法を知ることが出来る</p>								
<p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</p> <p>各検査が何のために行うのかを理解し、手順どおりの実施が出来る。また、結果と高次脳機能障害を結び付けて考えることが出来る。患者さんに対する声かけや態度などを身につけることが出来る</p>								
回数	講義内容							準備物(教材)
1	検査の目的や取り組み方、評価選定について説明できる							教科書等
2	簡易検査をもちいて実際に演習を行い、結果をまとめる（HDS-R、MMSE-J等）							教科書、スライド資料、検査道具
3	peper patientを基に簡易検査を実施し結果をまとめる							教科書、スライド資料、検査道具
4	知能検査について実施と説明が出来る（WA I S）							教科書、スライド資料、検査道具
5	知能検査について実施と説明が出来る（RCPM, コース）							教科書、スライド資料、検査道具
6	遂行機能の検査について実施と説明が出来る（B A D S）							教科書、スライド資料、検査道具
7	記憶の検査について実施と説明が出来る（S-PA、RBMT）							教科書、スライド資料、検査道具
8	記憶の検査について実施と説明が出来る（WMS-R）							教科書、スライド資料、検査道具
9	失行、失認の検査について実施と説明が出来る（SPTA）							教科書、スライド資料、検査道具
10	前頭葉機能の検査についての実施と説明が出来る（FAB）							教科書、スライド資料、検査道具
11	視空間認知の検査について実施と説明が出来る（VPTA、BIT）							教科書、スライド資料、検査道具
12	注意機能の検査について実施と説明が出来る（CAT、TMT）							教科書、スライド資料、検査道具
13	情報収集、スクリーニング検査について説明できる							教科書等
14	スクリーニング検査を作成することを通して必要な内容を理解する							教科書等
15	作成したスクリーニング検査をお互いに行い、FBができる							教科書等
	定期筆記試験							
<p>【使用教科書・教材・参考書】</p> <p>標準言語聴覚療法 高次脳機能障害学 第3版</p> <p>高次脳機能障害ポケットマニュアル 第3版</p> <p>病気がみえる vol. 7 脳・神経 第2版</p>								
<p>【準備学習・時間外学習】</p> <p>実施した検査については、各自道具を使用しながら手順を確認してください。</p>								
<p>【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】</p> <p>試験の結果を100点満点として成績を評価する。</p> <p>定期試験実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。</p>								